

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
39	川崎市立 枳形 中学校	岩崎 知美

学校教育目標	今年度の重点目標
新しい時代を創造するための教養を身につけさせ、心身ともに健全で調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。 1. 学力を高め、自ら考え正しい判断ができる人(知) 2. 美しい豊かな心を持ち、思いやりがあり、助け合える人(情) 3. 責任を重んじ、実行力のある人(意) 4. 体力を高め、健康で自分を大切にすること(体)	1. 確かな学力を身に付ける教育の推進 ・「興味・関心を高める授業」「わかる授業」など、魅力ある授業を実践し、生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせる。 2. 心の教育の推進 ・一人ひとりの生徒と教職員との信頼関係を築き、生徒と共に明るく、生き生きとした学校をつくる。 3. 健康・安全教育の推進 ・すべての生徒が心身ともに健康で、安全して学習ができ、安全な教育環境整備を進める。 4. 開かれた学校づくりの推進 家庭地域との連携を積極的に図り、開かれた学校づくりを推進する。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<学力の向上> 確かな学力を身につける教育の推進 ・生徒の学習意欲の向上 ・基礎・基本的事項の定着 ・評価についての研究	○川崎市学習状況調査の結果をふまえ、各教科で分析し後期からの授業改善に向けて協議する研修を行った。 ○小中連携、中高連携の研究授業を通して、自ら授業を公開したり、参観したりすることにより研究を深め、指導力の向上を目指し取り組んだ。 ○多くの教員がクロームブックを活用し、視覚的に理解しやすい授業を行っていた。 ○本時の目標や単元のねらいを明確にした授業づくりに取り組んだ。 ○朝学活の時間に読書とクロームブック活用(GIGA活)の時間を定期的に設けることができた。 ○「総合的な学習の時間」では、外部人材を有効に活用し、自ら主体的に探究する活動に取り組ませることができた。 ●学習を苦手とする生徒への対応について、夏季学習会の他にも日常的な学習のフォローが必要である。 ●「指導と評価の一体化」については、夏休みに研修を持ったが、学校全体の共通認識として今後も見直しを繰り返していきたい。 ●今年度の校内授業研究は2回とも「特別の教科道徳」であったので、1回は教科の授業研究を行い、日頃からも授業を見合う同僚性を構築したい。	・川崎市学習状況調査の結果の分析について、各教科の分析だけではなく組織的な取組を実施する。 ・時間割の中に組み込まれている教科部会で定期的に授業内容や評価について話ができる環境作りを行う。 ・基礎・基本の定着が不十分な生徒や学習に対する困り感のある生徒への具体的な支援を支援教育コーディネーターと学年とが連携を図りながら検討する。また、テスト前や夏休みの学習会等の一層の充実を図る。 ・若く経験の浅い教員に対し、学年の教員が実践の中で助言するOJT体制をつくる。 ・拡大要請訪問の実施や校内授業研究会の充実を図る。「指導力向上週間」などを設定し、授業を互いに見合い授業を通して語り合える雰囲気を作る。 ・今後も評価の三観点の趣旨の理解を深められるよう、校内研修や校外研修で得た情報の伝達などを確実に行う。 ・総合的な学習の時間を軸に、各教科が教科横断的に捉えながら、各教科での学ぶ意義を見出せるような授業改善を行っていく。	
2	<社会性の育成> 心の教育の推進 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・支援教育の充実 ・命、心の教育の推進	○福祉教育や環境教育など、体験的な活動を通して、学校や学級内の温かい人間関係づくりを進めるとともに、思いやりの心と命を大切にする心を育む。 ・命の大切さを知る体験的な学習の実施 ・道徳教育の推進 ・「総合的な学習の時間」の柱を環境学習、福祉体験学習、キャリア教育の三つに設定 ・学校生活アンケートや教育相談を実施し、いじめや暴力を許さない学校環境の確立 ・一人一人を大切に支援教育の理解の推進	○校内道徳授業研究を年に2度行い、道徳推進教師を中心に本校の道徳の授業の取り組みについて見直し、道徳の授業の大切さを共有した。 ○「総合的な学習の時間」におけるエネルギー環境教育については、多くの企業を招き、オリエンテーション講演をはじめ、体験的な学習を行うことで、自分たちが今、身近に取り組めることを考えることができた。また、その他の体験的な学習についても充実したものとなった。 ○主任会ではスクールカウンセラーに参加してもらうことによって、本校の実態を把握し教育的ニーズのある生徒の支援について共有することができた。 ●総合的な学習の時間の単元計画として全教職員が何を学ぶ学習かを全体で共有し、単発で終わらせるのではなく、各教科で教科横断的に捉えていくことが必要である。 ●学習支援について一人一人の状況について把握することはできたが、具体的に手立てを講じることまではできていない。	・各種行事で育成する資質・能力を明確にし、その意義について教職員が共有していく。 ・「気づき、考え、行動する」といったスクールモットーを継続させ、生徒の自己肯定感を高める活動を推進していく。 ・生徒を主体とした取り組みを多くし、その助言についても生徒が自信を持てるような言葉かけを行う。 ・普段から心無い言葉や行動に敏感に反応し、生徒とふれあい、寄り添う形で話を聴くことを大切にする。 ・週一度行われる主任会を継続して行い、生徒の状態を把握し、情報を共有しながら生徒に寄り添う指導を行っていく。 ・支援教育の推進については、ケース会議などを定期的に行い、学年主任と支援教育コーディネーター、担任が一層の連携を図る。 ・教育相談では、担任とだけではなく、他の相談できる教職員とも教育相談ができる環境を整えていく。

3	<責任ある行動の育成・教育環境整備> ・特別活動の活性化 ・健康・安全教育の推進	○主体的な活動を通して集団生活の向上を目指すとともに、すべての生徒が健康で、安心して学習できる教育環境整備を進める ・各種委員会活動、生徒集会等の生徒会活動の充実 ・委員会活動や代表者で構成される生徒評議会でのリーダー育成 ・健康教育、防災・避難訓練を通した防災・安全教育の推進	○各種委員会をはじめ、評議会などリーダーを中心に生徒主体で行う活動が増え、生徒の成長につながっている。 ○各種委員会等の縦割りの活動を充実させ、上級生から下級生へ活動を伝えていくことにより、良好な生徒集団の育成を行うことができた。 ○防災・避難訓練において、生徒は主体的に危険を避け、自分の命を守る術を学ぶことができた。また合同防災訓練への参加など、防災意識を高めた。 ●教師間において生徒会活動や委員会活動の意義が共有されず、活動によっては差が見られた。教職員全体で再確認したい。	・評議会はリーダー育成の場であるので多くの職員が関り、生徒の活動を共有していきたい。 ・教職員の防災研修を行い、震災や水害時の対応、避難開設になった際の対応などについて、教職員が主体的に動けるようにしたい。また、校舎内外の設備等の安全点検についても業務職員とともに全員で意識する。 ・委員会活動では、既存の活動の見直しや、さらに必要な活動について自分たちに何ができるかを考えさせたい。
4	<開かれた学校づくりの推進> ・家庭・地域との連携の推進 ・積極的な情報発信 ・小・中・高連携教育の推進	○家庭・地域と一体化した教育活動を推進する ・地域行事(地域パトロール、盆踊り・祭礼パトロール等)への参加 ・地域行事の生徒への周知と参加の推進 ・地域教育会議主催の行事への積極的な参加 ・学校だより、各種通信やホームページを通じた積極的な発信 ・小・中・高連携教育の推進 ・学校運営協議会の年間通した運営 ・地域の避難所運営会議への積極的な協力体制	○地域の行事(盆踊り、餅つき、祭礼等)に全教職員で巡回、参加し協力することができた。 ○学校だより、学年だよりは定期的に発行することができ、内容も充実している。保護者・地域の方からも毎回楽しみにしているという声を頂いた。 ○小学校と中学校でそれぞれ1回ずつ交流参観を行い、その後の協議の中では活発に情報共有ができた。 ○学校運営協議会を年3回行い、地域の方々などから貴重な意見をいただき、学校運営に生かすことができた。 ○生田東高校との交流参観では、ICT利活用授業推進校としての新しい取り組みなどを参観することができた。 ○今年度は、多摩区合同防災訓練を本校で行い、地域、PTAの方々とも協力して運営することができた。 ●ホームページへの更新が活発に行われなかった。来年度は校内に担当を置き改善したい。	・引き続き学校だより、学年だより、校長室だよりを定期的に発行する。 ・小中連携についてはその目的を明確にし、小中における育てたい生徒像をお互いに理解したうえで計画していく。 ・コミュニティスクールとしての機能や権限を一層活用し、地域や保護者の方々の協力を仰ぎながら学校運営に取り組んでいく。 ・地域に開かれた学校づくりの意義を教職員で共有し、生徒が地域で活躍できる協力体制をつくっていく。 ・避難所運営会議の内容を教職員と共有し、合同防災訓練への協力を促す。 ・学校ホームページについては校内に複数人担当を置き、適切な更新と内容の工夫を目指す。
5	<働き方・仕事の進め方改革に関する取り組みの推進>	○勤務時間管理の徹底と健康管理を意識した働き方を進める ・教職員のキャリアや特性に応じた学年、分掌等の配置 ・教育課程の見直しや行事の精選 ・学年主任、分掌主任を中心とした日頃からの協力体制の構築	○部活動を実施しない日を年間予定に組み込むことで、教員が各自の仕事の予定を計画しやすくなり、効率よく仕事を進めることができた。 ○体育祭の時間を短くし、練習時間削減することで授業時間の確保と熱中症対策に取り組んだ。 ○長期休業中の時差出勤や振替などの制度を周知し、柔軟に働きやすい環境を推進した。 ●部活動の活動時間や行事の見直しなどは行っているが、生徒の活動の確保と教職員の働き方のバランスがにおいて全体的な改善には、至っていない。	・学年や分掌において、組織的に仕事に取り組む体制を整え、一人一人の負担を軽減することで、時間外在校時間を減らすよう努める。 ・学校閉庁日を利用した休暇等の取得の推奨を継続する。 ・引き続き、長期休業中に柔軟な働き方ができるよう様々な制度の周知を図る。 ・各教職員が働き方・仕事の進め方についての意識を高める。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> 「学校公開週間」に環境フォーラムを位置付けていただき、生徒達の積極的な姿勢や、教員・外部講師の協力体制を拝見し、頼もしく感じた。環境フォーラムは準備など大変かとは思いますがこれからも続けてほしい。 相談したことに対して真摯に向き合い、子供の様子もよく見ていただいているので安心していい。 ・餅つきや祭礼などの地域行事に中学生が参加し運営に協力してくれることは大変ありがたい。中学の力は大きく、行事が盛り上がりしていく。 ・合唱コンクールの練習の様子を見させていただきとても良かった。本番での素晴らしい歌声の裏には、日々の努力や練習の過程での様々な経験があることがわかった。 ・校則について、学校のルールも良い所は残してアップデートする所はして行った方よいと思う。 ・一部学習の環境が良くないと思う部分があると。先生方も大変だと思うが改善に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も育てたい生徒像として「気づき、考え、行動する生徒」を掲げ、全教職員がその方向性に向けて教育活動に臨むことができた。また、生徒間でもこの言葉を意識して学校生活を送っている様子が見られた。本校の特色である、総合的な学習の時間における体験的な学習では、生徒が主体的に取り組んでいる。そうした主体的に学ぶ姿勢を、各教科の中にも一層生かし、一人一人にきめ細やかな指導を行ってほしい。 ・学校運営協議会に関しては、今年度は学校主体で運営をしてきたが、委員の権限や組織的な動きを明確にし、開かれた学校経営のために内容の改善が必要であると考え。他校の取り組みなどを参考にし、本校の実態にあった学校運営協議会の内容を考えていきたい。 ・学校評価アンケートの結果をもとに、本校の強みと弱みを検証し、改善を行ってほしい。特に本校が学校経営の中で柱としている総合的な学習の時間や特別活動において、一層の充実を図るとともに、持続可能な方法を今後模索していく必要がある。 ・職員の働き方・仕事の進め方の改善については、生徒の活動を確保しつつ、引き続き教育課程や時程の工夫が必要であると考え。また、生徒数が減少傾向にある中で、教職員の数も制限されるため、校務分掌の整理や数多くある特別委員会を整理する必要がある。部活動についても今後を見据えて、活動の在り方を教職員と考え方をしていきたい。